

廉く日本には寄越さない、日本の製鐵事業が若し潰れるやうなことがあつたならば、彼等はどうかと云ふと、一躍して10圓も20圓も高くする、斯う云ふことは明かなことであります、どうして自衛上相當の保護を或る期間加へて、さうして將來の安全を期する、日本の諸工業の發達はそれから先き安心して出来る、乃ち保護は一時の自衛である、斯う云ふ風な意味に於て、我々は此相當なる保護を希望する所以であります、尙ほ申上げれば、此等の點に關しましては多少考究いたして居る點もございますので、申上げることは澤山ございますが、是以上に時を過ぎすと云ふことは甚だ不本意でありますので、之にて打留めて置きます、最後に新會長の主宰の下に本會が益々隆盛にならむことを祈り、新會長の御健康並に皆さんの御健康を祝する爲に、御賛成を得まして乾盃を致したいと思ひます（一同乾盃）それでは是で散會いたします（拍手）午後九時十五分散會

大正十五年四月二十三日印刷

大正十五年四月二十五日發行

編輯人兼發行人	東京市芝區三田豐岡町六十番地	赤羽朝彦
印刷人	東京市神田區美土代町二丁目一番地	島連太郎
印刷所	東京市神田區美土代町二丁目一番地	三秀舍
發行所	東京市麴町區有樂町一丁目一番地東七號館内	日本鐵鋼協會

定價金七拾五錢

電話大手局三一四四番
振替貯金口座東京一九三番